

第6回 次世代型太陽電池の導入拡大及び産業競争力強化に向けた官民協議会

○日時

令和6年9月10日（火）9：00～11：00

○場所

オンライン

○プログラム

1. 開会
2. 上月良祐経済産業副大臣ご挨拶
3. 次世代型太陽電池に関わるファイナンスについて
 - ・株式会社三井住友銀行（一般社団法人全国銀行協会：会長行）
4. 次世代型太陽電池に関わる保険について
 - ・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
5. 議論：ファイナンス・保険について
6. 次世代型太陽電池戦略（骨子案）について
 - ・事務局
7. 議論：次世代型太陽電池戦略骨子案について
8. 閉会

○議事概要

次世代型太陽電池に関わるファイナンス・保険について

- ファイナンスについて、外部売電では売電条件や需給バランスなど確認すべき論点が多い。まずは分散型の自家消費で普及が進むなかで、金融機関として知見を蓄えることが重要。
- 保険引受に際し、建物設置を想定する場合には可燃性が論点となり得る。一方で、太陽光発電所のみをリスクグループとして捉えているわけではなく、基本料率には影響が少ない可能性がある。
- 量産立ち上げフェーズにおいては、民間・国の適切なリスク分担について具体的な検討を進めたい。

次世代型太陽電池戦略（骨子案）について

1. 全体方針について

- 脱炭素化・エネルギーの安定供給の観点から、エネルギー全体の中でのペロブスカイト太陽電池の役割や比率を検討すべき。

- 大量生産の局面ではリスクヘッジ戦略を持つことが必要であり、ニッチな市場で高い利益率を狙う戦略もありうるのではないかな。
- 脱炭素化の促進の観点から、タンデム型による発電量や地上設置のリプレースが重要。量産化にあたっては、シリコン太陽電池パネルの量産技術を持つ他国との連携も重要ではないかな。

2. 海外展開について

- 海外の競合を上回るスピード・コストの確立を考えると、国内市場の創出をてこに、海外市場へ積極的に展開することが必要。
- 海外市場でも競争力をもつことができる性能（変換効率・耐久性）を実現するには産学一体となった基礎研究が重要。

3. 発電コスト・導入目標について

- 軽量・柔軟なシリコン太陽電池との競合や多様な場所への施工などを考えると、2040年には現状の試算よりもレベルの高いコスト低減目標を考えるべき。
- ペロブスカイト太陽電池の施工コストが低減する可能性については更なる検討が必要だが、海外展開の際には、モジュール・周辺機器・施工コストを切り分けて分析する必要があるのではないかな。

4. 今後の対応について

- 導入支援については、自治体等への手厚い補助が必要。また、ペロブスカイト太陽電池本体だけでなく、設置費用・周辺設備費用などへの対応等、柔軟な支援を検討してほしい。
- 大規模な需要家負担で支えられFIT制度については、活用ありきで進むことのないようにすることが重要。受益と負担の公平性も踏まえ、効果的な支援のあり方をしっかり検討すべき。

お問い合わせ先

経済産業省資源エネルギー庁

省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課

電話：03-3501-4031